

(339) カードセレクターを利用した技術資料管理体制について

住友金属工業 本社
製鋼所

野田 益弘 樫原正規
田村英二郎 数井良一

1. はじめに

コンピュータによる情報検索システムは、処理量、迅速性、検索精度などの点で明らかに優れているが、対象分野がある程度限定され、資料件数が10万件以下の小規模な場合には、カードセレクターによる検索システムでも、充分有効な検索が可能であり、コストおよび簡易性の点で有利といえる。当社製鋼所では昭和49年3月に技術資料管理室を設置し、各種技術資料の収集およびカードセレクター(タナック620型)を利用した検索体制の充実に努めてきた。その内容を以下に報告する。

2. 管理システム

(1)方針: ①必要な情報が必要な時に短時間で入手出来る体制の確立 (Activeな情報提供は本社機構に依存し、所としてはPassiveな情報提供を指向)

②所の技術経験資料を積極的に収集し、技術の継承蓄積を図る。

(2)収集対象資料およびその検索方式

①社内報告書(所内技術試験報告、研究所研究報告 14000件)

自然語をキーワードとした当所独自のカードにより検索する。キーワードは報告書、専門用語集より抽出し、KJ法により選定したもので、480語よりなり、品種、品名、社名、用途、製造、性質、鋼種などを含む。図1にシステムフローを示す。キーワードが直接内容と対応しているのでカード作成、検索が容易である。

②一般文献資料、会議資料(10000件)

UDCコードをキーワードとしたカードにより検索する。カード作成、検索においてコード化が必要なのでやや熟練を要するが、対象範囲は広い。UDCコードは1-2-48方式で4個まで記入可能。

③図書(7000冊)

図書専用のカードで検索する。キーワードは自然語。各課工場所有分も含めて検索し、必要内容の図書が所内のどこにあるかが判明する。カードは図書購入依頼票も兼ねている。

④出張報告、カタログ(1000件)

会社別にファイリングしたマニュアル検索で充分であり、カード化はしていない。出張前に一読して事前の折衝経緯などの情報を把握しておく。

3. まとめ

資料の検索方式は、対象範囲、内容、資料数、ニーズなどに応じて、それぞれの最適システムを選ぶべきである。カードセレクター方式においては、使用するキーワードの種類によって処理の難易と検索精度が支配される。

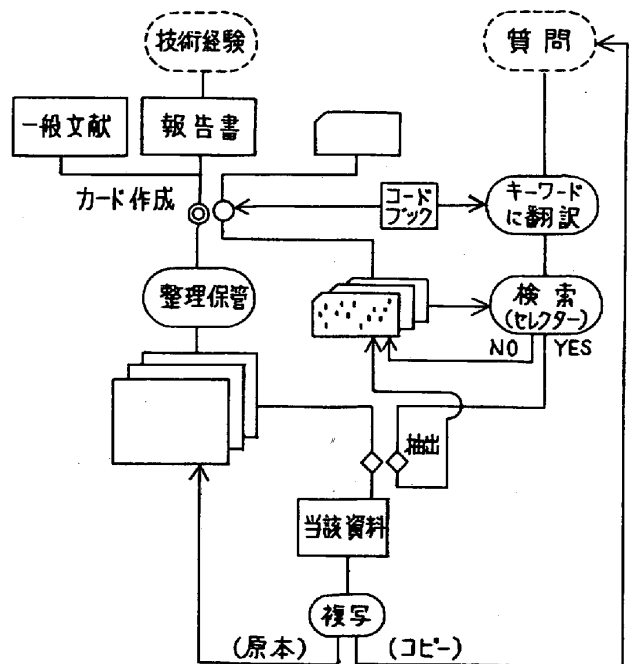


図1. システムフロー